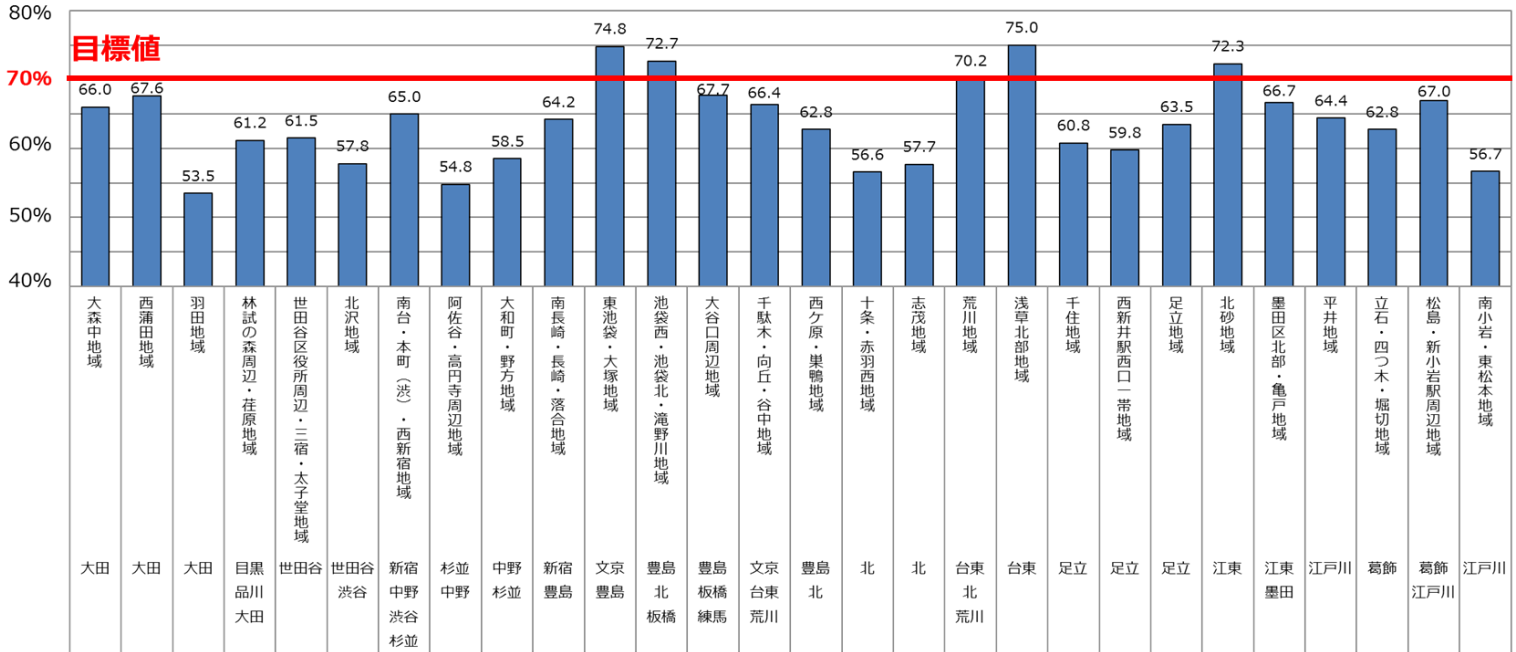


## ■整備地域ごとの不燃領域率の最新状況

最新の防災都市づくりの事業実績を反映し、各整備地域の改善状況をわかりやすくまとめました。

不燃領域率（2020年度 参考値）



- 整備地域ごとの不燃領域率の推移は、都市整備局のホームページ「防災都市づくり推進計画 ビジュアル版」に掲載  
<https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai/visual.htm>
- 前回の防災都市づくり推進計画（平成28年3月改定）の整備地域範囲における都の算定結果による。
- 不燃領域率70%以上の地域数の目標は、2025年度で半数以上、2030年度で全地域



### 不燃領域率とは？

- 市街地の燃えにくさを示す指標
- 70%を超えると延焼の危険性がほぼなくなるとされている。

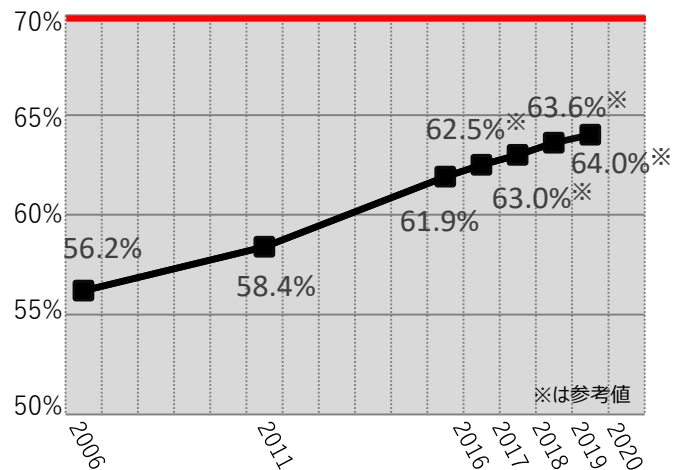
$$\text{不燃領域率} = \text{空地率} + (1 - \text{空地率} / 100) \times \text{不燃化率} (\%)$$

- 空地率 道路、公園などの空地が占める面積割合
- 不燃化率 全建物における燃えにくい建物（鉄筋コンクリート造など）が占める面積割合



不燃化（共同化）の整備例  
（中延二丁目旧同潤会地区）

### 【参考】整備地域全体の不燃領域率の推移



- 2006、2011、2016年度は、土地利用現況調査に基づき算定
- 2017年度以降は市街地状況の変化を踏まえて算定した参考値